

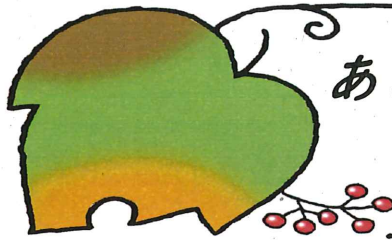


八頭町立郡家東小学校 学校だより
ふるさとを愛し 志を立て 自立して生きる児童の育成



輝く瞳をもつ子供

第8号 R5. 10. 31
八頭郡八頭町稲荷310番地
TEL 0858-73-0010
FAX 0858-73-0011
E-mail
kogee-e@mailk.torikyo.ed.jp



あきらめなければ 道は開ける

盛田里美



秋晴れの心地よい日々が続いています。1日の寒暖差も大きくなり、山々の紅葉も始まりました。昨年の春植菌した我が家の椎茸も次々と出始め、秋の味覚を楽しんでいます。グラウンドでは、11月のマラソン大会に向けての練習風景が見られるようになりました。

将来みんながマラソン選手になるわけでもないのに、なぜ学校ではマラソン大会をするのでしょうか。本校では3つのねらいで実施していますが、その中の一つは「より高い目標を立て、最後まで走り抜き、くじけないで努力する子を育てる」です。長い距離を走るという困難な状況をあえて設定し、めざす児童像「やりぬく子」を育てたいのです。児童会の健康委員会では、みんながマラソン大会に向けて練習をがんばるように話し合い、マラソン大会ががんばりウィークを設定しました。「マラソン＝忍耐」というイメージがありますが、子供たちはいかに楽しみながらこの困難をみんなで乗り越えるか、工夫をしています。主体的で頼もしい子供たちです。マラソン大会でのやりぬく子の姿に期待したいと思います。

人権教育参観日の子育て講演会では、脳梗塞の発症により重い言語障害が残った「たけさん」こと河村武明さんのお話を伺いました。「深い絶望の中で、失ったものを数えるばかりの生活だった」ことを感じさせない明るさがたけさんにはありました。本当は苦しい心をごまかして「ありがとう」と言い続け、ついに「小学校の図工の授業以来なのに左手で絵が描ける」ことを発見。できないではなく「できること」を考えはじめ、道が開けてきたとのことでした。「人が褒めてくれない。ではなく、寝る前に自分で自分を褒めてあげよう。」「自分はできる。と言おう。」というたけさんの言葉が印象的でした。私は、たけさんの話を聞きながら、藤井聡太七冠が八冠を決めた対局のことを思い出していました。AIが「永瀬99%対藤井1%」と形勢判断したにもかかわらず、永瀬王座の悪手を誘うほどの一手で大逆転。これもまた「できること」を必死に探した結果だったのではないかと想像しました。そして、この対局だけ見れば負けですが永瀬王座もこの悔しさを糧に成長していけるのだらうと思いました。

道が開けるまでの長さは人それぞれです。もがき苦しみ、時にはあきらめしてしまうこともあるかもしれません。それでも「できること」を見つけ、こつこつと歩んでいる姿を子供たちに示し、大人も子供も共に成長していきたいと思っています。

